

法人(事業所)理念

夢と希望をもって持てる力・強みを発揮しながら地域で楽しく穏やかに生活できるよう共に歩いていきたい！  
 自閉スペクトラム症を中心とした発達障がい児のために有益な支援アイデアを取り入れた専門プログラムで一人ひとりに合わせた支援を実施します。

支援方針

### 児童発達支援センターゆめみっこ

- ★専門機能を生かした、地域の障がい児その家族、関係機関からの相談
- ★障がい児を預かる施設への援助助言等の実施
- ★通所利用の障がい児への療育支援や、その家族に対する支援の実施

#### 【地域支援サービス】

福島県発達障がい地域支援マネージャー委託事業において、以下の内容を実施しております。支援が必要な方へ、相談支援事業所を紹介するなど必要な道筋を提案、助言等を行います。

#### 相談、療育相談、助言等(個人、施設学校等)

★発達障がい等についてのご相談を承ります。まずはお電話下さい。

電話受付日時 : 平日、隔週土曜日 9:30~17:00  
 相談日時 : 原則毎週水曜日 9:30~15:00(事前予約が必要です)  
 相談内容 : 18歳以下の発達障がい児や障がい等について  
 対象者 : 発達障がい等について相談されたい方  
 スタッフ数 : 常勤2名、非常勤3名  
 連絡先 : 0242-33-8818(担当:森田)

#### 幼稚園・保育所(園)巡回相談

★月1回程度、幼稚園・保育所等からのご要望に応じて巡回・相談を承ります。

電話受付日時 : 平日、隔週土曜日 9:30~17:00  
 訪問日時 : 月1回程度園に訪問します(事前に相談させていただきます)  
 相談内容 : 発達障がい疑われる園児等について  
 対象者 : 園所属の保育士、教諭、保護者等  
 スタッフ数 : 常勤2名、非常勤3名  
 連絡先 : 0242-33-8818(担当:森田)

#### その他必要な事業

- ★健診支援事業
- ★夢あるき発達支援研修事業(研修受入実施、年度初めに募集します)

#### 【評価・療育・発達支援サービス等】

#### 児童発達支援事業

- ★未就学児への発達支援
- ★家庭連携訪問
- ★関係施設機関連携等

保護者通所コース

#### 放課後等デイサービス事業

- ★学童以上18歳迄の障がい児への支援
- ★保護者通所療育
- ★家庭連携、関係機関連携、相談等

#### 保育所等訪問支援事業

★幼稚園・保育所(園)や学校等へ訪問して、お子さんへの支援等を行います。ご利用には受給者証が必要です。

#### てらす

(障がい児相談支援事業・特定相談支援事業)

- ★相談・情報提供
- ★利用計画の作成
- ★モニタリング等の実施

#### 各種検査

PEP-3  
 CARS  
 PARS  
 TTAP  
 その他

一部医療機関へ依頼

市町村、関係機関、医療機関等との連携

支 援 の 内 容	<p>児童発達支援センターとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門機能（自閉スペクトラム症を中心とした発達障がい児のための支援）を生かした支援の提供</li> <li>・地域支援サービスとして、会津、南会津圏域の相談、療育相談、助言（個人施設学校等）、こども園・保育所（園）への巡回相談の実施</li> <li>・夢あるき発達支援研修・講演会など研修事業の実施</li> </ul>
	<p>支援の流れ</p> <p>◎アセスメント(評価) お子様の状況、状態を把握いたします。保護者様からの初期アセスメントでの聞き取り、状況に応じてお子様からの聞き取り、職員による直接観察や医療機関、学校等の関連機関からの聞き取りなどから得られる情報を基に実施します。</p> <p>◎フォーマルアセスメントは、「PEP-3」(小児自閉症教育診断検査第3版)「SM社会生活能力検査」「PARS-TR」(親面接式自閉スペクトラム症評定尺度 テキスト改訂版)などを実施します。「PEP-3」は自閉症や他の発達障がいを対象とした検査で、領域別検査は直接検査と観察があります。6つの発達能力測定(認知/前言語、表出言語、理解言語、微細運動、粗大運動、視覚-運動模倣)と4つの特異行動検査(感情 表出、対人相互性、運動面の特徴、言語面での特徴)からなっており、情緒面や、身体、運動、生活、コミュニケーション、人間関係、社会性、認知行動など個別支援計画の5領域に対応し幅広く評価できます。特にもう少しで達成出来そうな「芽生え反応」を捉える事が出来、支援を開始するにあたって発達段階や特徴を把握する際に有効です。自閉スペクトラム症以外のお子様の現状把握にも有効です。</p> <p>◎インフォーマルアセスメントとして保護者様に基本調査票に記入していただき、基本情報を把握し、初期アセスメントの聞き取りにて現在の子どもの生活等を把握します。また、生活スキルチェックリストにて5領域に合わせて(できる、芽生え、できない)で評価をしていただきます。衣服の着脱やトイレ自立などの日常生活スキルに関してや、余暇の過ごし方、社会との関係性など必要な項目について情報をいただきます。その他、医療機関、関係機関からの情報提供をいただきます。</p> <p>◎カンファレンスの開催 アセスメントの結果から、児童発達支援管理責任者、検査担当、直接支援担当スタッフで情報共有をし、特性の確認、支援の方向性等を話し合うカンファレンスを実施します。このカンファレンスにおいて基本情報や他機関の情報を共有し、一人ひとりの強みと興味関心等確認し、どのような支援が最適かまた、学習スタイルに合わせたスケジュールやワークシステムの設定や、先生と勉強、一人で勉強の内容確認等、情報共有しスタートの準備をします。</p> <p>◎個別支援計画の作成 アセスメントとカンファレンスでの情報やサービス等利用計画をもとに、個別支援計画書を作成します。具体的には保護者様に、お子様が今出来そうなことや生活スキルチェックリストの(芽生え)を参考に、5領域における家庭支援計画を立てていただきます。その家庭支援計画案も考慮して、児童管理責任者が個別支援計画案を作成します。保護者、担当職員、児童発達管理責任者で共有し計画説明と確認をします。</p> <p>◎発達支援療育について 支援内容は、個別支援計画内容の発達や特性に合わせ、課題やスケジュールを設定し、担当スタッフが準備します。まずは、新しいことを伝えていきますので先生とお勉強や遊びからスタートし、基本的な流れを上から下、左から右の手順で伝えていきます。その後、一人で勉強で出来ることをスモールステップで徐々に広げられるように関わります。ゆめみっこの発達支援は、ゆめみっこでの支援が家庭でも般化できるように別室または近くで見させていただきます。保護者との協働療育の実施を進めたいため保護者通所療育になっております。</p> <p>◎モニタリングと再アセスメント 支援を継続し、半期(3月と9月)に一度、モニタリングを実施し、新しい半期のための計画をたて直します。このようなAPDCを繰り返して支援を継続していきます。</p>
	<p>1日の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所持品始末・・・玄関にてご挨拶、ノートにシール貼り、ロッカーにカバンや荷物を入れる。移動する。</li> <li>・スケジュール確認・・・トランジションエリアにて自分のスケジュールを確認し活動開始する。</li> <li>・おあつまり(児発のみ)・・・ごあいさつ、呼名、手遊びなど</li> <li>・せんせいとべんきょう・・・ワークシステムに従って先生と楽しく課題をします。スモールステップで進めます。一人ひとりに合わせた課題設定をします。</li> <li>・一人でべんきょう・・・一人で課題をします。自分ひとりでする課題を設定し「やった！」と自信をつける場面でもあります。</li> <li>・うんどう・・・一人ひとりの課題に合わせて実施します。トランポリン、バランスボール、バランスボード、等々</li> <li>・あそび・・・あそびのエリアでの共有あそびとひとりであそび。選択あそび、スヌーズレンでのリラクセス等々</li> <li>・帰りの会・・・出席ファイルをもらう。おやつをもらう。挨拶など。(放デイは更に手遊び、本読みを行うことも有り。)</li> <li>*保護者との相談援助・・・毎回、支援の後半に担当スタッフとのお話の時間があり、本日勉強の振り返りと次回の勉強の内容確認、連絡ノートの確認(最近の状況確認と相談)についてお話をします。</li> <li>*おあつまりから遊びまでの順番や内容は、計画に沿って毎回少しずつ変えています。</li> </ul>
<p>そ の 他</p> <p>音楽教室・・・年間通して10回程度、土曜の午前中に音楽療法士の先生の指導で楽しい時間を過ごします。小集団療育になります。保護者の方も一緒に楽しみましょう。</p> <p>ソーシャルクラブ・・・月1回(土)中高生対象の小集団活動。所内活動(調理や製作など)、所外活動(ボーリング、買い物等々)、保護者分離活動等、社会性を培う活動として実施しています。</p> <p>療育内行事・・・半期に一回、簡単な調理、制作などをします。</p>	

児童発達支援支援プログラム

支 援 方 針	一人ひとりの特性を理解し、学習スタイルにあわせた視覚支援などのアイデアを利用しわかりやすく伝えます。興味関心等の強みをいかし、わかる！出来た！と成功体験を重ね自己肯定感を高めるよう支援します。		
営 業 時 間	8 時	30 分	17 時 30 分まで 送 迎 実 施 の 有 無 あり <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">なし</span>
本 人 支 援	健 康 ・ 生 活	<p>◎特性や学習スタイルを考慮し健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズム作りの支援方法を保護者と一緒に考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめみっこで何をやるのかを一人ひとりが理解できるように視覚的に（具体物、絵、写真、文字等）スケジュールを伝えます。見通しをもって自発的に活動出来るよう伝えます。いつもと違う流れであっても対応できるように、また「えらび」で選択することを伝え、将来、自主的に活動出来るように生活リズム作りを支援します。（PECS）</li> <li>・睡眠、食事、排泄、衣服の着脱等基本的なスキルは、生活場面における環境の工夫を行いながら、課題分析して視覚的支援で伝え、こどもの状態に応じて適切な時期に適切なスキルの支援を、また衣服の調節、室温の調節や換気、病気の予防や安全について“あぶない！”等をわかりやすく視覚支援で伝えていきます。</li> <li>・家事については、簡単にできることを褒めながら一緒にやることを伝えていきます。家族の一員としてお手伝いを励行し自信をもって生活できるよう伝えます。</li> <li>・特性に配慮し時間や空間を本人にわかりやすく構造化して支援し、強みや興味関心をいかにしながら穏やかに生活できるよう保護者と協働していきます。</li> </ul>	
	運 動 ・ 感 覚	<p>◎姿勢保持と運動・動作の基本的技能の向上及び補助手段の活用、身体の移動能力の向上、感覚の特性への対応と代行手段の活用について支援していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動機能障害や感覚過敏、鈍麻などの特性から体全体をうまく使えていないことが考えられます。1つの動作から他の動作を少しずつ合わせて運動機能を上げていきます。</li> <li>・粗大運動、微細運動を通して姿勢保持や体幹づくり、バランス感覚、指先の不器用さ、力の強弱、距離感等、様々な体の感覚を確認しながら支援します。</li> <li>・感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等を行い、十分に活用できるよう運動や遊び等を通して支援します。苦手な感覚は代替機器の使用や回避ができるよう支援します。特に偏食について、幼児期は無理なく食することに心掛け、マナーを伝えながら楽しく食べる事を伝えていきます。聴覚についても過敏な場合は、慣れさせようとはしないでイヤーマフ等を利用して自己回避出来るよう伝えます。</li> <li>・手順書（絵や写真文字等）を使用し、どのように何回実施するのか（数カードを使用等）を伝え、自発的に取り組めるように伝え一緒にいきます。</li> </ul>	
	認 知 ・ 行 動	<p>◎認知の特性についての理解と具体的な対応や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得そして行動障がいへの予防及び対応について支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特性や学習スタイル、強みや興味関心に合わせて、どのような支援、環境の設定であれば集中して学習できるか確認し支援します。</li> <li>・先生と勉強では「指示書や手順書」など視覚支援を利用しながら「一緒にやってくれた！」と「楽しい」「やってよかった」と感じるように先生との関わりの中で学びます。</li> <li>・一人で勉強では、ワークシステム（アクティビティシステム）に従って活動し、「一人でできた！」と自信をもって出来るように工夫し準備します。</li> <li>・認知や行動の手掛かりとなる概念、物の機能、属性、形、色、数、重さ、空間、時間等を理解し活用できるようわかりやすく支援します。</li> <li>・何かをして”待つ”ことやスケジュールを楽しめることに変更する事に”変更”になる事があるということや伝え 柔軟に受け入れることが出来るよう伝えていきます</li> <li>・コミック会話などを利用し、経験したことやその時の相手の気持ちや自分の気持ち等の情報を理解、共有して適切な行動に繋げることが出来るよう支援を重ねていきます。</li> <li>・感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障がいの予防及び不適切な行動については、氷山モデルや機能分類に合わせてその理由を考え、強化しながら行動変容出来るようその対応について一緒に検討していきます。</li> </ul>	
	言 語 コミュニケーション	<p>◎コミュニケーションの基礎能力の向上、言語の需要と表出、コミュニケーション手段の選択と活用、状況に応じたコミュニケーションを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの種別や程度、特性や学習スタイル、コミュニケーションレベルに合わせて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、文字や絵カードを使ったPECSや具体物などの視覚的支援を利用したり、表情や身振り、各種の機器等を用いて理解表出し、意思のやりとりが行えるようにする等、必要な基礎的な能力を身につける事が出来るよう支援します。</li> <li>・先生とお勉強や遊びの中で、楽しみながら同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得等基礎能力向上のための支援を行います。</li> <li>・“要求” “拒否” “注意喚起” “情報請求” “情報提供” “感情表現” “あいさつ”などの目標を明確にして必要なコミュニケーションスキルをわかりやすく伝えます。手伝ってほしい時、教えてほしい時、足りない時の「～ください」や選ぶ活動の時やおもちゃの貸し借りの時の言い方などを絵や写真文字カードなどでまず大人に要求出来るように支援していきます。</li> <li>・活動や遊びの関わりを通して具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけること等により、自発的な発声を促し、言語を身につけることが出来るよう支援します。</li> </ul>	
	人 社 会 関 係 性	<p>◎情緒の安定と他者との関わり（人間関係）の形成、遊びを通じた社会性の発達、自己理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加について一人ひとりに合わせて支援していきま</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>す。</li> <li>・人に対して信頼感を持つことができるよう、わかりやすい環境を提供します。1対1の関わりからはじめ、安心して過ごすことができ、遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援します。（先生と遊びJASPAR、ESDM）</li> <li>・興味関心のある好きな遊びを大切に、周囲にこどもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊び、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊び等、大人と一緒に役割分担したりルールを守って遊ぶ協調的な遊びへと徐々に相互作用ができるよう 一人ひとりの状態ににわせて社会性の発達を支援します。</li> <li>・ストレスが強い状態の時には、子どものペースに合わせて関わり、ストレスを発散する方法を考えます。また、気持ちや感情が崩れたり、不安になった際には、その理由を考え、クールダウンしたり、大人と活動したりお話ししたりする中で、安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう支援します、また、自分の感情に気付く、いろいろな感情がある事を知りその対処法を考えるなど感情や気持ちのコントロールについて伝えます。（先生とお勉強やお話、遊び、スヌーズレン室の使用）</li> <li>・コミック会話等を用いて、相手の気持ちに気づいたり自分の気持ちを知り、適切な言葉を理解し表出することができるよう一緒に考えていきます。</li> </ul>	
家 族 支 援	ご家族がこどもの特性や学習スタイルを理解し、ゆめみっこでの発達支援を家庭においても般化できるように支援します。家庭で安定した生活が出来ようご家族と協働し共に考えていきます。	移行支援	就園、就学など移行期には不安なく穏やかに移行できるよう関係機関と連携し、可能な限り地域の保育、教育等と関わり、その中で適切な支援を受けられるようにしていきます。本人の希望を確認し同年代のこどもをはじめとした地域における仲間づくりが出来よう支援に努めます。
地域支援・地域連携	こどもの育ちや家庭生活の支援に関わる保健・医療・福祉・教育等の関係機関や障害福祉サービス等事業所と、地域の一員として穏やかに生活・活動出来るよう本院の希望を基本に支援、連携をしていきます。	職員の質の向上	3か月間の新人研修、1年間の学習会参加、年10回の職員研修を実施します。TEACCHプログラム研修を基本に応用行動分析や認知行動療法、PECS等コミュニケーション研修、SOCIAL STORIES等エビデンスのある支援を実施するための職員研修外部研修を重ねます。
特 記 事 項	こどもの発達の状態・特性等理解し、それに適した支援を行うことが必要です。ゆめみっこご家族が協働し様々な合理的配慮を行いながら環境を工夫します。常に子ども達にとって最善の利益が保障できるようつためていきたいと思います。		

放課後等デイサービスプログラム

支 援 方 針		児童発達支援の本人支援をベースにして一人ひとりの発達の状態及び発達の過程・特性等を理解し、その特性及び発達の状況に応じたイラストや写真等を用いて視覚的にわかりやすい支援を海賊します。思春期、青年期に向けて自己肯定感を持って生活出来るよう努めていきます。					
営 業 時 間		10 時	00 分	17 時	30 分まで	送 迎 実 施 の 有 無	あり <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">なし</span>
本 人 支 援	健 康 ・ 生 活	<p>◎健康状態の維持や改善、生活リズムの形成の支援方法基本的な生活スキルの習得、生活におけるマネジメントスキルの育成を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康的な生活リズム（睡眠、食生活、衣服の調整について等）特に思春期に向けて安定した生活リズムが作れるようお伝えします。</li> <li>・整容等身だしなみについて必要に合わせて支援します。</li> <li>・家庭生活における役割お手伝いなどが習慣化できるよう継続します。</li> <li>・出来る事は支援を受けながらも自分で行うことを褒め、自己肯定感を持って生活できるよう支援していきます。</li> <li>・生活上の困難さや自己の行動や感情を調整し、他者に対して主体的に働きかけたり、自分でアイデアを出しながら自立生活を営む力を育みます。</li> </ul>					
	運 動 ・ 感 覚	<p>◎姿勢保持と運動・動作の基本的技能の向上及び補助手段の活用、身体の移動能力の向上、感覚の特性への対応と代行手段の活用について支援していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動機能障害や感覚過敏、鈍麻などの特性から体全体をうまく使えていないことが考えられます。運動については動きを分割して練習し最後に組み合わせてお伝えします。苦手な部分の為、達成感や楽しさを重視し、無理なくスモールステップで進めていきます。例えば、縄跳びは、棒転がし跳び、手を叩いてトランポリン、縄回し跳び等を練習してから縄跳びの一連の流れをつなげていきます。</li> <li>・姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚活動、ストレッチ、ラジオ体操、軽い運動・バランスボールでの姿勢保持など一人ひとりに合わせて実施します。</li> <li>・微細運動での指先のトレーニングやビジョントレーニン等で視野を広げたりします。</li> <li>・感覚の過敏さや鈍麻さには無理せず対処方法などをイラストや写真等を用いて視覚的にお伝えします。また実践出来る場面には視覚支援を見せつつ行動を促します。聴覚過敏についてはイヤーマフや耳栓の使用で自己回避をお伝えします。</li> </ul>					
	認 知 ・ 行 動	<p>◎認知の特性についての理解と具体的な対応や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得そして行動障がいへの予防及び対応について支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションレベルに合わせたスケジュールやワークシステムに従って活動することができ、待つことやスケジュールの変更に対応出来る柔軟な行動を目指します。</li> <li>・特性や学習スタイルや、強みや興味関心に合わせて、どのような支援、環境の設定であれば集中して学習できるか確認し支援します。</li> <li>・先生と勉強では「指示書や手順書」など視覚支援を利用しながら「できる!」「楽しい」「やってよかった」と感じるように人との関わり方や内容を工夫します。</li> <li>・場面の読み取りや理解、その時に求められるまたは適切な行動について考え、身につけるサポートをしていきます。また、実際に起こったことなど本人や保護者の方から伺い、イラストや写真等で資料を作成しその時の対応方法などを一緒に考え伝えていきます。</li> <li>・“感情に気付く”“感情に名前を知る”“対処法を考える”など、気持ちや行動のコントロールを練習します。</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニングのワークシート、絵カードを使用しての状況判断と予測や対応について子どものペースに合わせて関わり、ストレスを分散する方法を考えます。</li> <li>・不適切な行動は、コミュニケーションの一つとして考え冰山モデルや機能分類に合わせて考え、強化しながら変容出来るよう一緒に考えていきます。</li> </ul>					
	言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	<p>◎コミュニケーションの基礎能力の向上、言語の需要と表出、コミュニケーション手段の選択と活用、状況に応じたコミュニケーションを支援します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの種別や程度、特性や学習スタイル、コミュニケーションレベルに合わせて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、文字や絵カードを使ったPECSや具体物などの視覚的支援を利用したり、表情や身振り、各種の機器等を用いて理解し、意思のやりとりが行えるようにする等、必要な基礎的な能力を身につける事が出来るよう支援します。</li> <li>・“要求”“拒否”“報告”“聴く”など必要なコミュニケーションスキルを、特性に応じて言葉だけでなく絵カードなどを使用した方法などで子ども一人ひとりに合ったやり方を考えて支援します。また絵カードやプリントなどの教材を利用し状況判断と適切な要求を伝えます。</li> <li>・名詞の要求→名詞のカード+下さいカードを貼って読み上げてもらったり、ハサミをかってほしいときはなんて言う?→「ハサミをかって下さい」と言うなど、適切な要求を促し、PECSなどコミュニケーションのスキル向上に努めます。</li> <li>・自己紹介、他己紹介や個別の特性に応じた読み書き、聞き取り当を支援します。</li> </ul>					
	人 間 関 係 性 社 会	<p>◎情緒の安定と他者との関わり（人間関係）の形成、遊びを通した社会性の発達、自己理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加について支援していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“順番交代”“役割”“ルールを守る”“指示に沿った行動をする”など、社会に適応する為に必要なスキルや社会的なルール・マナーを伝えます。また、自己理解や人との関係性や距離感など見えにくく分かりにくい部分について、特性に配慮しイラストや写真等を用いて視覚的にお伝えします。</li> <li>・集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの希望に応じて、遊びや小集団活動に参加できるように支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら仲間づくりに繋がるようまた自信をもって活動に参加できるように支援します（ソーシャルクラブ）</li> <li>・距離感、対人関係をイラストを使ってお伝えしたり、電話のかけ方や取り方取次方等のビジネスマナー等を必要に応じて支援します。</li> </ul>					
家 族 支 援	ゆめみっこでの発達支援を家庭においても般化できるように特性を理解し、家庭生活を安定・充実させるよう、また思春期を穏やかに過ごせるよう、家庭での役割を意識して生活できるよう共に考えます。	移 行 支 援	可能な限り地域の教育等と関わり、その中で適切な支援を受けられるようにします。進学や高等教育への入学などまた、就労などへの移行は、関係機関との連携を、スムーズに移行出来るよう支援して行きます。				
地域支援・地域連携	支援に関わる保健・医療・福祉・教育・労働等の関係機関や障害福祉サービス等事業所等との連携を実施します。 特にライフステージに応じた切れ目のない支援と関係者間のスムーズな連携の両方に気を付けながら支援していきたいと思ひます。 地域での活動を支援します。	職員の質の向上	3か月間の新人研修、1年間の学習会参加、年10回程度の内部研修の実施します。 TEACCHプログラム研修を基本に応用行動分析や認知行動療法、PECS等コミュニケーション研修、SOCIAL STORIESなどエビデンスのある支援を実施するための職員研修外部研修を重ねます。				
特 記 事 項	現在、待機児童が大変多く申し訳ございません。ご相談がありましたら連携機関との調整も行い県のマネージャー事業にてお受けする事も可能ですのでご連絡ください。また保護者学習会も実施しておりますのでよろしければお声掛けください。						